HOMAS 日本語版 ニューズレター

Hokkaido Massachusetts Society

北海道・マサチューセッツ協会

No.56
平成21年(2009年)3月20日発行
北海道・マサチューセッツ協会
会長 森本 正夫

発行所 〒060-0003
札幌市中央区北3条西7丁目
道庁別館12階
TEL011-231-3392 FAX011-231-3666
発行人 中垣正史
E-mail homas @ siren.ocn.ne.jp

北海道開拓の基礎を築いた指導者たち⑪

北海道及び11ヵ国86郡の名付け親 松浦武四郎の生涯

ー 幕末の探検家・６度にわたり蝦夷地を踏査・膨大な著作をのこした「北海道人」 ー

■まえがき

江戸中期の蝦夷地は、ロシアの南下政策でロシア船の寄港・上陸が相次ぎ、日露の緊張は、幕府・明治政府にとっては脅威でした。ロシアは、18世紀初めごろから、カムチャッカ半島を開き、千島・樺太を南下して蝦夷地に接近してきます。1792年(寛政4年)には、漂流者大黒屋光太夫を伴ってラクスマンが、1804年(文化元年)にはレザノフが、使節として根室・長崎に通商を要求してきました。一方、幕府の北辺防備の対策としては、1783年(天明5年)幕吏最上徳内をエトロフに、大石逸平を樺太に派遣、そして1798年(寛政10年) 幕吏を配置、近藤重蔵をエトロフに派遣、翌年東蝦夷を直轄領とし、1802年(享和2年)函館伊東一円を幕府直轄地として函館奉行をおいています。その後、1811年(文化8年)千島測量中のディアナ号艦長ゴローニン捕縛事件がありましたが、高田屋嘉兵衛の活躍などによって、ロシアとの緊張状態は一時的に緩和されます。他方、寛政・文化年間に間宮林蔵が蝦夷・樺太を探検して、樺太が島であることを確認、また1817年(文化14年)、伊能忠敬は、蝦夷地も含めて日本全国の沿岸測量をして実測図(日本地図)を完成しています。

こんな時代背景のなかで、松浦武四郎(1818－1888)は、16歳の時から全国各地を旅し、名所旧跡などを訪ねて、丹念にその概略や名所・旧跡の様子のスケッチやメモなどを残しています。遠く中国・インドを目指すも鎖国制度のため断念。長崎でロシア南下政策の危機を知り、蝦夷地(現在の北海道)を目指すことを決意したといわれます。武四郎は、1845年(弘化2年)28歳、初めて蝦夷地に渡ります。以後探検家として3回、幕府・明治政府役人として3回、合計6回・15年間にわたり、アイヌの人びとの案内を得て、寝起きや食事も共にしながら、海岸線から内陸部まで隈なく探検して、記録や地図を書き残しています。ここでは、蝦夷・樺太・千島探検の第一人者として天下にその名を知られた「松浦武四郎」の蝦夷地探検の業績に光を当ててその生涯をたどってみたいと思います。

出身地三重県では、俳人松尾芭蕉、国文学者本居宣長と並ぶ三偉人と称されますが、松浦武四郎の知名度は、生地よりも北海道内の方が高いようです。彼の生地、三重県松阪市小野江町(旧三雲町)が「松浦武四郎記念館」(1994年・平成6年開館)を設立したのは、北海道内の研究者による武四郎の業績の高い評価が大きな影響力になったようです。

■松浦武四郎の生立ち

松浦武四郎は、1818年(文政元年)2月6日、伊勢国一志郡須川村(現在の三重県松阪市小野恵町)

の郷士で庄屋をつとめる松浦桂介の四男(末子)として生まれています。幼名は竹四郎で、40 才ごろから武四郎と書くようになり、後年、多気志楼の号も用いています。父は、本居宣長の門下として国学を修め、茶や俳諧もたしなむ人物であったようです。武四郎は、7 歳で曹洞宗真学寺の来応和尚について手習いや誦経などを習いおぼえています。1830 年(文政 13 年)13 歳で、津の儒者平松楽斎の塾に入門、「論語」などを学んで、大きな影響を受けますが、1833 年(天保 4 年)1 月平松塾を退塾して家に帰り、2 月 1 日出奔して江戸に下り、山口遇所に「篆刻」を学んでいます。しかし一ヶ月ほどで郷里からの迎えがきて帰郷します。帰途は中山道を通り、迎えの者を先に返して、一人戸隠山・御岳(3,076m)に登っています。この時山に登る喜びを知り、この 16 歳の時の経験が生涯の一転機となったといわれます。

1834 年(天宝 5 年)9 月、諸国遍歴の旅に出ます。近畿・北陸・中国地方をまわり諸名家を訪ねます。四国八十八ヶ所霊場もすべて巡り、さらに九州地方もことごとく踏破して足かけ 5 年の行路を経て、1838 年(天保 9 年)1 月長崎で疫病に罹り周囲の人々の介抱を受けて死地を脱します。3 月 22 歳で出家し、平戸の寺院で住職になります。武四郎白の生涯を通じてこの 3 年だけが静穏・平安な日々であったようです。この間、壱岐・対馬に渡り、さらに朝鮮の山に登ってみたいと思うのですが、鎖国時代で、朝鮮へ渡ることは当時としては国禁でした。この長崎時代に、いろいろな人びとと交流し、ロシア南下政策の危機を知り、蝦夷地・北蝦夷地(樺太)の探検を決意したのでした。武四郎は 10 年ぶりで実家に戻り、北方探検に出かける前に、すでに亡くなっていた父の 7 年忌・母の 3 年忌法要をすませています。

探検家武四郎は、身長 150 センチメートルほどの痩せ型・小柄ですが、並外れた健脚の持ち主であったようです。彼は、生来感情の強い人で、「短気で精悍」「強情、負けん気」な性格であったといわれます。武四郎は、小さな羅針盤一つを携行するにすぎず、測量する場合は高い所に立って目測したり、実際に自分で歩いて歩測したといわれます。

■蝦夷地の調査

1844 年(弘化元年)1 月還俗し、2 月蝦夷地を目指して青森まで行きますが、取締りが厳しく断念します。そしていよいよ、翌年から 15 年間にわたる蝦夷地の探検が始まります。

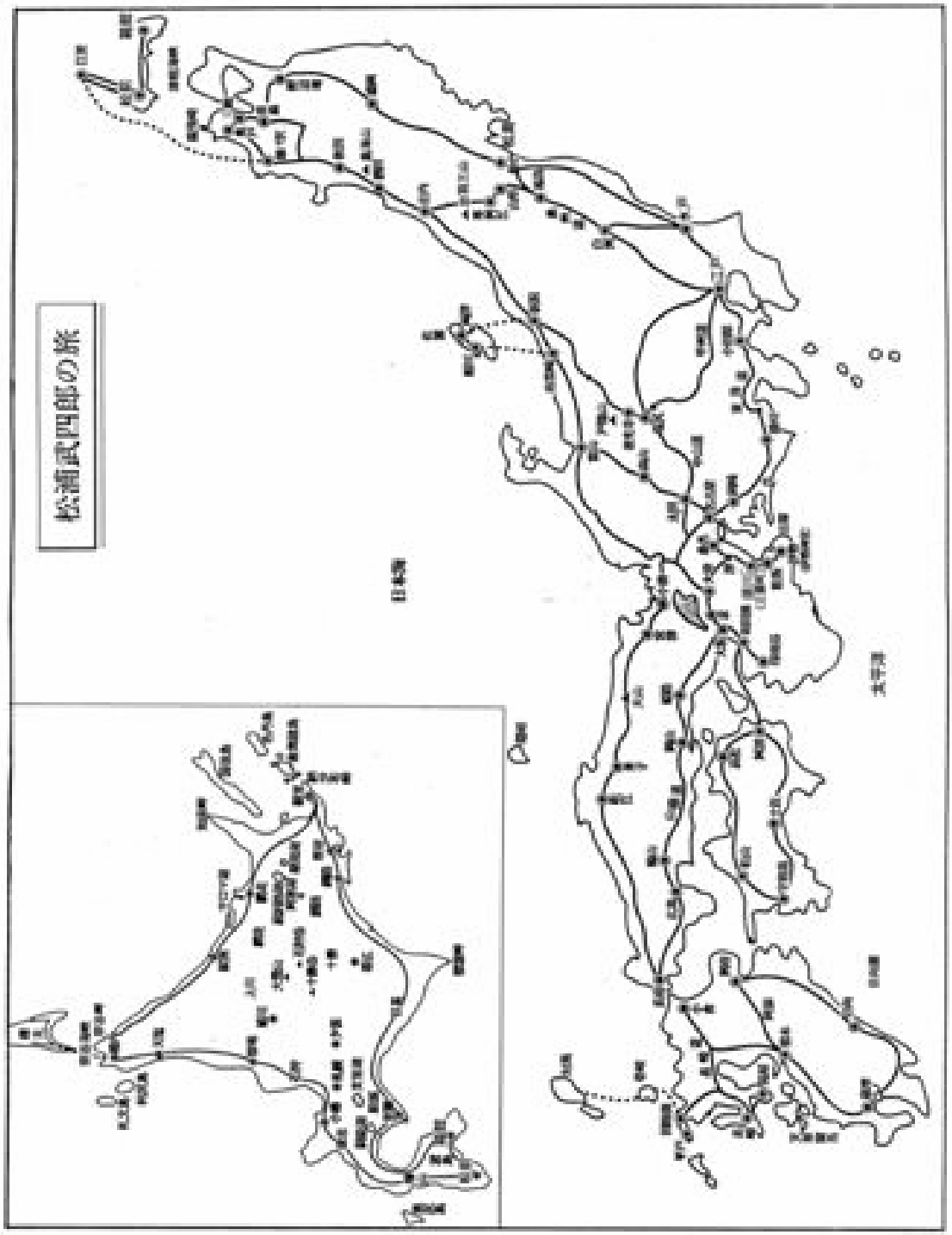
1 回目 1845 年(弘化 2 年)4 月、28 歳、初めて蝦夷地に渡り、太平洋岸地域を歩き知床岬の先端まで到達し、自分の名前を墨書した「勢州一志郡雲出松浦武四郎」という標識を立てています。11 月江戸に帰って直ちに「初航蝦夷日誌」の記録整理に精力を傾けます。

2 回目 1846 年(弘化 3 年)3 月からの二回目蝦夷地調査では、西蝦夷地・北蝦夷地(樺太)などを調査。この間武四郎は、蝦夷地に先住していたアイヌの人びととの交わりを通して、アイヌ語(蝦夷語)を勉強しています。11 月江差で頼山陽の四男・頼三樹三郎と会い、冬至の日に「一日百印百詩」の書画会を催しています。翌年北陸を巡って 11 月中旬江戸に戻り、探検記録の整理と蝦夷に関する著述に専念します。

3 回目 1849 年(嘉永 2 年)32 歳、三回目の蝦夷地調査では、千島の国後島・択捉島を調査。このときは、武四郎のアイヌ語はもはやほとんど不自由を感じないまでに上達していたようです。

翌 1850 年(嘉永 3 年)以降著作に専念し、調査記録「初航蝦夷日誌」12 巻・「再航蝦夷日誌」15 巻・「三航蝦夷日誌」8 巻(合計 35 巻)を完成します。また「三航蝦夷全図」・「蝦夷語」なども完成。

さらに「蝦夷大概図」を著しますが、これはわが国最初の北海道全図といわれます。しかし、これらの発刊に憤慨した松前藩などからつけねらわれるようになります。


松浦武四郎の旅

・1853年(嘉永6年)36歳、吉田松陰と海防問題を語り合う
・「初航・再航・三航蝦夷日誌」を水戸の徳川斉昭に献上、松前藩の恨みを買う。
・1854年(嘉永7年)宇和島藩の依頼で下田で、再来航海のペリー一行の様子を調べる。

4回目 その後、幕府から「蝦夷地御用御雇入」の命を受けて、翌1856年(安政3年)、四回目の蝦夷地調査では、北海道の海岸線と樺太を調査。この時、徳川斉昭から餞別五両をいただいています。「丙辰蝦夷日誌」・「東西蝦夷場所境取調書」・「蝦夷ばなし」「竹四郎廻浦日記」31巻・「東西蝦夷山川地理取調日誌」85巻・「東西蝦夷山川地理取調紀行」24巻・「北蝦夷日誌」・「蝦夷地名奈留辺志」3冊・「近世蝦夷人物誌」9巻などを著しています。

5回目 さらに、1857年(安政4年)、五回目の蝦夷地調査で、石狩・天塩地方を調査。

6回目 1858年(安政5年)、六回目の蝦夷地調査で、北海道の海岸線と十勝・釧路・日高地方を調査。翌1859年(42歳)、四～六回目の調査報告書を幕府に提出。蝦夷地の地図は、伊能忠敬(1745～1818)・その門弟間宮林蔵(1775～1844)、近藤重蔵(1771～1829)等の測量により海岸線はほぼ正確になっていましたが、武四郎の努力により内陸部の状況を詳細に図示した『東西蝦夷山川地理取調図』28枚が完成します。これは、海岸線・内陸部までを詳細にあらわした蝦夷地地図としては最大のもので、約9,800点のアイヌ語地名を収録した画期的な地図でした。「戊午蝦夷山川地理取調日誌」61巻、「蝦夷漫画」2冊の刊行。そしてアイヌ文化を紹介する本なども出版します。

またこの年、深川の儒学者梅園のもとに学問に通っていた武四郎(42歳)を見染めたという、旗本福田氏の娘「とう」と9月18日結婚しています。1860年(万延元年)～1864年(元治元年)には、蝦夷地の様子をわかりやすくまとめた紀行文などを出版しています。

この、六度に及ぶ詳細な調査では、先住民であるアイヌの人びとの協力を得て、その成果を調査報告をまとめ、寄稿や地図として出版、蝦夷地がどのようなところか、アイヌ文化のすばらしさを伝えることに一生懸命努めています。武四郎は、周到綿密な記録メモ・写生などをもとに、その生涯にわたって膨大な記録と文書、日記・書簡と絵図、数多い浩瀚な著書を残しています。実地調査をもとにした武四郎の著書は、常にアイヌ側の視点で書かれており、和人の過酷な差別・搾取の非道をきびしく糾弾しています。武四郎は、当時の場所請負人であった飛騨屋・村山伝兵衛・鷹田屋、そして柏屋藤野喜兵衛らが、多くのアイヌ人を遠い漁場などへ長期的に強制連行して酷使し、女を慰安の道具としていた悲惨な状況に対する憤りを書き記し、松前藩にも訴えています。

■開拓使判官時代

武四郎は、1868年(明治元年)4月、明治政府から徴収士函館府判事に任命され、蝦夷地探検の業績により一万五千疋を賜っています。さらに、翌2年5月蝦夷地「開拓御用掛」を拝命、7月開拓大主典拝命しています。

さて、明治政府にとっては、ロシアの脅威にさらされた蝦夷地の防備と開拓は急務でした。1869年(明治2年)7月、「箱館府」(明治2年9月、「箱館」を「函館」と改めます。)にかえて開拓使を設置しますが、初代長官には元佐賀藩主鍋島閑叟、開拓次官には元箱館府総督清水谷公考、開拓判官としては、札幌本府建設の先覚者島義勇、後の初代北海道長官岩村通俊と並んで、幕府時代からの蝦夷通といわれた武四郎(52歳)も開拓判官(従五位)に任命されます。そして8月15日武四郎の提案をもとにして、蝦夷地を「北海道」と改称し11ヵ国86郡を置きます。

「北海道」命名について、武四郎は、「北加伊道」「日高見道」「海北道」「海島道」「東北道」「千島道」の6案を提出しています。11ヵ国86郡については、次のとおりです。

渡島国（6郡）―亀田・茅部・福島・津軽・檜山・爾志
後志国（17郡）―久遠・奥尻・太櫓・瀬棚・島牧・寿都・歌棄・磯屋・岩内・古宇・積丹・美国
古平・忍路・高島・小樽・余市
石狩国（7郡）－石狩・札幌・夕張・樺戸・空知・雨竜・上川
天塩国（8郡）－厚田・浜益・増毛・留萌・苫前・天塩・中川・上川
北見国（8郡）－宗谷・利尻・礼文・枝幸・紋別・常呂・網走・斜里
胆振国（8郡）－山越・虻田・有珠・室蘭・幌別・白老・勇払・千歳
日高国（7郡）－沙流・新冠・静内・三石・浦河・様似・幌泉
十勝国（7郡）－広尾・当縁・大津・下川・河東・河西・十勝
久摺国（8郡）－白糠・足寄・久摺・善報・阿寒・網走・上川・厚岸
根室国（5郡）－花咲・根室・野付・標津・目梨
千島国（2郡）－国後・択捉

この「北海道」の命名は、武四郎の提出した六案のひとつ、「北加伊」をもとにしています。それが「北海」となり、東海道や北陸道と同じく北海道に決定したのです。武四郎は、北海道の名前、国名（支庁名）、郡名をすべてアイヌ語に基づいて考えます。明治政府は、武四郎の考えた六案の名前の中から「北加伊道」を採用し、「北海道」と決定したのです。武四郎は、この命名について、「かい」はアイヌ語のカイ＝この土地で生まれた者、「北のアイヌ民族が暮らす大地」という意味を込めたといわれます。また、国名・郡名についても、ほとんど武四郎の原案通り採用されています。

武四郎は、「蝦夷通」の開拓判官として、開拓使長官にたいして、松前藩をほかにうつすこと・場所請負人制度を廃止すること・北海道を分割して諸藩に支配させることなど３点を主張していますが、聞き入れられず、また、先住民族アイヌに対する差別・搾取などの開拓政策を批判して、その救済に努力しましたが、結局松前藩の居座り請負人の復活に失望して 1870 年（明治 3 年）3 月、52 歳の時、在任わずか 7 ヶ月で 開拓使判官を辞職、従五位を返上します。明治政府は、武四郎の長年の功績を讃えて表彰（終身 15 人扶持）しています。

■趣味に生きた晩年

官位を辞した武四郎は、馬場先門の岩倉具視右大臣邸内の御長屋に寓居しましたが、1873 年（明治 6 年）5 月、神田五軒町に敷地 600 坪をもとめますが、家は 20 畳（6 畳二間・4 畳半・3 畳）ほどの小さなものでした。後に隠居所と書斎を建て増します。「草の舎」という一畳敷きの書斎は、全国の社寺の廃材を集めて建てたものでした。この「一畳の書斎」には半間ほどの床の間・造り付けの戸棚や書棚・明かり窓などの工夫があり、武四郎の好きな空間であったといわれます。広い庭はほとんど自然のままの庭を好んだようです。長年一所不住の探検家の人生を生きた武四郎にとっては、初めての自分の家でした。ここで、武四郎は、一市井として、北海道関係の書物執筆に専念したのでした。

武四郎は、探検家として膨大な紀行文を執筆しただけでなく、詩歌を詠み、絵画をよくし、骨董品収集、考古学や天文・地理・植物・民俗学にも通じていました。また、天神信仰をおこなうなどさまざまな活動をしています。当時化け物のすむ山として恐れられた大台ケ原山（1,695m）を終焉の地と定めて、1885 年（明治 18 年）、68 歳から 70 歳にかけて、３度にわたり調査しています。1887 年（明治 20 年）、西日本各地をまわり、70 歳にして富士山にも登っています。

1888 年（明治 21 年）2 月 4 日、下谷に住む親友鷲津毅堂宅で脳卒中で倒れて人力車で自宅に運ばれますが、10 日午前 4 時東京神田五軒町の自宅で死去。享年 71 歳の生涯でした。12 日浅草称福寺に

埋葬されましたが、後に染井霊園に改葬されています。明治天皇は特旨をもってお供物料を下賜されたということです。なお、遺言により、奈良と三重の県境にある大台ケ原に追悼碑(分骨碑)が建てられています。

現在、松浦武四郎の銅像は、釧路市の幣舞公園に、道案内の老アイヌを従えて探検記をメモしている姿で建っています。武四郎の3回目の釧路調査(1858年・安政5年3月24日)からちょうど100年目にあたる1958年(昭和33年)11月に、阿寒国立公園観光協会有志によって、「松浦武四郎蝦夷地探検像」(中野五一製作)として建立されました。11月3日の除幕式では、東京から駆けつけた武四郎五代目の松浦一雄氏が除幕の綱を引き、釧路市長をはじめ多くの市民・30数名のアイヌも参列しておこなわれたようです。碑文では武四郎が阿寒の地を調査し景勝を紹介した功績を讃え「阿寒国立公園の父」として顕彰しています。釧路市は、武四郎に敬意を表して昭和7年、西幣舞町を「松浦町」と変更しています。また、留萌郡小平町のにしん文化歴史公園に銅像と歌碑(平成8,5)があり、天塩町鏡沼海浜公園にも遠くをみつめる武四郎の銅像と歌碑(平成9,5)が建立されています。また、「一畳の書斎」は、東京都三鷹市の国際基督教大学敷地内に移築保存され、国の登録文化財となっています。

「松浦武四郎蝦夷地探検像」台座正面の碑文

北海道及び釧路の名付け親 松浦武四郎は幕末に未開の地蝦夷探検の急務を説き一身を賭して苦難と闘いアイヌ民族の協力を得て東西蝦夷山川地理取調圖等蝦夷地開拓計畫の基礎を作成し為政者に供して諸種の献策を行いその促進をはかる

安政五年(一八五八年)阿寒国立公園地帯を探査して久摺日誌を記述せしより百年目に當りクスリ酋長メンカクシの砦趾たりしヌサウシチャシコツに像を建て北海道開發先覚者阿寒の父として永えに顕彰せんとするものである。　昭和三十三年(一九五八年)

阿寒国立公園観光協会

釧路市公民館長　丹葉　節郎撰

北海道ｇ悪芸大学教授　山口　野竹書

釧路市の幣舞公園にある松浦武四郎の銅像(昭和33年・中野五一作):写真提供釧路市地域史料室

＊中野五一(1897－1978)は、富山県出身、小樽・北見ゆかりの彫刻家。鉄道の父クロフォード像など。

<主な参考文献及び参考資料>

□「松浦武四郎蝦夷への照射」(日本の旅人⑭)　更科源蔵著　淡交社　□ 2004,7,23～8,22 第58回特別展「松浦武四郎―時代と人びと」北海道開拓記念館　□北海道青少年叢書 北国に光を・掲げた人びと(26)「北海道の名づけ親 松浦武四郎」合田一道著　北海道科学文化協会　□「明治の群像８開拓と探検」高倉新一郎編　三一書房　□ 三重県松阪市・松浦武四郎記念館資料　□「ほっかいどう百年物語」STV ラジオ編 中西出版　□「開拓につくした人びと第3巻」北海道総務部文書課編集　理論社刊　□「炎の人 松浦武四郎の生涯」 本間寛治著　七賢出版　□「松浦武四郎」　吉田武三著　吉川弘文館　□「北海道の名づけ親 松浦武四郎」合田一道著　□「北海道の歴史」榎本守恵著　北海道新聞社　□「釧路碑文手帳Ⅰ」釧路新書22 釧路古文書研究会著　釧路市　□ 松浦武四郎研究会作成資料　□インターネット資料

松浦武四郎記念碑一覧

釧路松浦郵便局風景印
平成１０．１０．１０

サハリン
ブガチョボ（旧地名・マダンコタン）（平８．６）<顕彰碑>

［留萌管内］
天塩町・銀沼海浜公園（平９．５）<銅像・歌碑>
小平町鬼鹿・にしん文化歴史公園（平８．５）<銅像・歌碑>
留萌市大町・望洋遊園（平７．８）<顕彰碑>
増毛町彦部・彦部橋（昭５４．７）<信砂越えの地：標柱>

［空知管内］
雨竜町面白内・面白内神社前（昭５５．９）<宿泊之地>
新十津川町・中央公園（平２．６）<歌碑>
〃　中央７０・金鵄酒造前（平２）<宿泊地跡>
砂川市空知太（昭３９．９）<踏査の地>
芦別市野花南町（昭５２．１０）<探検記念碑：　>
北村字赤川・北村役場前（昭３４．１０）<顕彰碑>
〃　赤川排水機場付近（昭５４．１１）<宿泊地>
長沼町幌内・マオイの丘公園（平８．７）<紀行足跡之碑>
浦臼町字晩生内（平１３．８）<説明板>

［後志管内］
神恵内村・商工観光センター前（平元．１２）<歌碑>
仁木町大江・稲穂トンネル入口（昭６３．１０）<歌碑>
倶知安町南３東７・白木建設工業（平９．６）<歌碑>
京極町・京極温泉前（昭３９．１１）<歌碑>

［渡島管内］
八雲町由迫・由迫稲荷神社（平２．３）<説明板>

［檜山管内］
大成町字太田・太田神社付近<和歌：木碑>
江差町本町（平１２．１０）<百印百詩顕彰碑>

［石狩管内］
千歳市・サーモン橋（昭６２．１１）<和歌：レリーフ>

［日高管内］
平取町二風谷・アイヌ文化博物館横（平１１．１０）<説明碑>

［胆振管内］
厚真町字富里・富里神社付近（昭５２．１１）<歌碑>

［上川管内］
音威子府村字物満内（平２．７）<北海道命名之地：木碑>
〃　字物満内（平１０．８）<松浦武四郎略年譜：木碑>
〃　字筬島（昭４８）<宿泊聴供出発之地：木碑>
美深町恵根内（平１０．１０）<宿営之地>
〃　敷香内（平１０．１０）<歌碑>
名寄市日進（平９．９）<宿営推定地：説明板>
下川町北町４６２（昭６０）<野営之地：木碑>
〃　三の橋３０線（平９）<名寄川上流到達点：木碑>
士別市上士別町（昭４２．９）<天塩川探検之地：木碑>
〃　中士別町<宿営地(ｻﾂﾅﾍﾂﾌﾄ)：説明板>
〃　北町（平９．９）<宿営地(ﾄﾏﾍﾂﾌﾄ)：説明板>
上富良野町・深山峠（昭４８．１０）<顕彰之碑>
富良野市・原始ケ原（平６．５）<通過の地：木碑>

［根室管内］
羅臼町字共栄・マッカウス銅鑼前（昭４５．９）<歌碑>

［網走管内］
斜里町字ウトロ（昭６３．９）<歌碑>
女満別町字大成（平元．５）<木柱>
北見市光葉町・中ノ島公園（昭５６）<説明板>
〃　小町泉通（平８．１０）<顕彰碑>
美幌町字都橋・峠の道（平１０．８）<宿営之地>

［釧路管内］
浜中町霧多布岬（昭４８）<和歌：木碑>
弟子屈町・屈斜路湖畔砂の道（昭１６）<歌碑>
〃　アイヌ民俗資料館横（平１５．８）<歌碑>
釧路市浦見町・物見公園（昭３３．１１）<銅像>
阿寒町・阿寒湖畔ボッケ（昭１６）<風詩碑>
〃　滝見橋付近（昭１６）<歌碑>

［十勝管内］
音更町・鈴蘭公園（大８．５）<開町記念碑>
新得町字新内・佐幌ダム上流（昭６２．１０）<野宿之地>
清水町字人舞・岸田政弘宅裏（昭４９）<宿泊之地>
中札内村西札内・防災ダム下流休憩所（平９．８）<歌碑>

平成 20 年度 第３回 国際交流ランチセミナー記録

“バレンタインデー” ～異文化理解のふれあい～

日 時　　平成 21 年 2 月 14 日(土)　11 時 30 分～14 時 30 分
会 場　　レストラン「 みもざ 」（札幌市中央区南 16 条西 5 丁目）

＜ゲスト＞

朴 庚 洙	（パク・キョン・ス）		（韓国）	北海学園大学留学生（M）
バドバヤル･バダラハ	（バド）		（モンゴル）	北海学園大学留学生（M）
張 健 華	（チャン・チィエン・ホァ）		（中国）	北海学園大学留学生（F）
Mr. Milo ROBERTS	（マイロ・ロバーツ）		（米国、ＵＭＡＳＳ）	北海道大学留学生 M）
姚 悦 月	（ヤオ・ユエユエ）		（中国）	北海道大学留学生（F）
Ms. Lioli Fisiwe Mary-Ann MAGUMA		（リオリ）	（ジンバブエ）	ＪＩＣＡ海外技術研修員（F）
Mr. GONDWE Hnmphrey Chiwozga Kalalamuka		（ゴンドウェ）	（マラウイ）	ＪＩＣＡ海外技術研修員（M）
Mr. MJUMIRA Louis Kondwani		（ルイス）	（マラウイ）	ＪＩＣＡ海外技術研修員（M）
Mr. LUHANGA Ezekiel Wanthembo		（エゼキエル）	（マラウイ）	ＪＩＣＡ海外技術研修員（M）
Mr. Richard Hinchliffe		（リチャード）	（英国）	札幌市在住（M）
Mr. Huuynh Vu Ngoc		（ヴゥ）	（ベトナム）	札幌市在住 M）

概要: この国際交流ランチセミナーは、マサチューセッツ州とのつながりに基本理念を置き、2001 年(平成 13 年)から、広く多国籍の北海道在住外国人をゲストとしてお招きして、国際交流や異文化理解の問題を論じ、会員同志の意見交換・交流の場にもなることを目指しています。今回は 23 回目です。北海学園大留学生 3 名, 北海道大学留学生 2 名、札幌国際センターのＪＩＣＡ海外技術研修員 4 名、など合計 11 名のゲストをお迎えして、国際色豊かな楽しい時間となりました。また、ばじめての「ビンゴゲーム」で盛り上がりましたが、景品は、高橋勝彦･岩佐栄子･上野紀世子･斉藤年子･野上光子の皆さんと中垣正史の提供によるものでした。ここにお礼申し上げます。　（通訳は、毎回、当協会会員・岩崎　修子さんにお願いしています。）

ここには紙面の都合で、各国ゲストのスピーチの 1 部をご紹介します。今回の参加者は、合計 46 名でした。

1　チョウ･ケン・カ　（中国・女性）＜日本語でスピーチ＞

こんにちは。中国から来ましたチョウ・ケン・カと申します。自己紹介で「ケンカです」と自分の名前をいうと、いつも笑われてしまいます。このランチセミナーには以前にも参加しましたが、大変楽しかった事を覚えています。今日もテーブルの皆さんと沢山お話をして楽しんでいます。

バレンタインデーについてお話しますと、実は、今、日本人のボーイフレンドがいます。中国のバレンタインデーは、男性が女性にバラの花束を贈る日なので、私も人生で初めてのバラの花束がもらえると期待していました。でも、日本では女性が男性にチョコレートをあげるのだとわかり、がっかりしました。今は日本にいるので、日本風にバレンタインをしますが、中国に行った時は、ぜひ中国のやり方でバレンタインをしてね、と彼と約束しています。そのときには、人生で初めてのバラの花束をもらえると、今から楽しみにしています。

2　リチャード・ヒンチクリフ（英国・男性）

みなさん、こんにちは。イギリスのロンドンから来ました。私は、今日本語を勉強していますが、皆さんの前でスピーチするほどまだ上手ではないので、英語で失礼します。

バレンタインデーに関してですが、英国で行なわれているやり方は、基本的に日本とは全く逆です。イギリスでは、常に男性が女性に贈り物をします。その逆はありません。「義理チョコ」というのもありません。同僚にチョコやプレゼントをあげなくてはならない、という義務感もありません。それから、妻やパートナー、恋人にあげるプレゼントはチョコレートとは限りません。例えば、私は妻に花を贈りました。でも、妻(日本人)はチョコレートが好きなので、結局私もチョコレートを食べましたが。イギリスでは、最近では、ロゼ・シャンペンがプレゼントとしてとても人気があります。今日は、お招きいただきありがとうございました。

３　ルイス（マラウイ・男性）

私たちはマラウイ(注：アフリカ、1964 年英国から独立。人口約 1,000 万人。国土面積は日本の 3 分の 1。主要言語は英語)から来ました。ルイスと申します。私たち 3 人は、札幌国際センターJICA で地域経済振興のことを学んでいます。(札幌滞在：2009,1,20～2009,2,27)

マラウイでのバレンタインデーについてお話します。5 年くらい前から、バレンタインデーについて広く知られるようになってきました。政治が民主化されてからです。マラウイのバレンタインは日本とは違っています。日本ではチョコレートがメインですね。マラウイでは、花を、愛する人にあげます。恋人だけに限定されるのではなく、人生において大切な人にあげるのです。都会では盛んに行なわれていますが、田舎へ行くと、まだ知らない人が多いかもしれません。都会の、主に若者の間で盛んです。このようにバレンタインデーが知られるようになったのはマスメディアによってであり、政府が民主化されてからのことです。そしてバレンタインデーには、チョコレート、花、カードなどを交換するようになりました。あとは友達が何か付け加えてくれると思います。

４　エゼキエル（マラウイ・男性）

私はエゼキエルです。マラウイのバレンタインの習慣について、私は個人的な経験をお話しましょう。昨日の夜、家に電話をして、妻と話しました。妻は私に、バレンタインのプレゼントには何をくれるの、と聞きました。帰国するときは、妻にバレンタインのプレゼントを持って帰らなければなりません。今年は、私は、妻のために日本のブラウスを贈ろうと思っています。

５　ゴンドウエ（マラウイ・男性）

私は、ゴンドウエといいます。私は、友人たちの話したことに少し付け加えたいと思います。マラウイでのバレンタインデーは、実はお金を持っている人たちのものです。TV やラジオでは、バレンタインデーのことが放送されています。バレンタインデーに自宅に人を招待する人もいます。奥さんやみんながおしゃべりを楽しめるようにです。マラウイには「マラウイ湖」という美しい大きな湖があります。水はきれいだし、リラックスするのによいところです。バレンタインデーに奥さんに愛情を示したい場合には、その湖に連れて行ってあげるのです。

今日、ここにお招きしてくれました日本の皆様に感謝を申し上げます。帰国しましたら、バレンタインはお金もちの人たちだけのものでなく、貧しい人のためにもあるということ、お互いに愛情を確認し分かちあう大切な日であることを、みんなに伝えたいと思います。ありがとうございました。

６　パク(韓国・男性)＜日本語でスピーチ＞

はじめまして、パクです。。韓国にも日本と同じようなバレンタインデーの習慣があります。韓国の 2 月 14 日の「バレンタインデー」は女性が男性にチョコレートをあげる日です。チョコレートやプレゼント、もしくは花、主にバラです。日本みたいに「義理チョコ」もあります。

3 月 14 日は「ホワイトデー」で、日本にもありますね。この日は男性が女性にキャンディもしくはチョコ、プ

レゼント、花などをあげます。

また、韓国では、4 月 14 日も特別な日で、「ブラックデー」です。韓国にはジャージャー麺という黒い麺料理がありますが、この日には、2 月 14 日・3 月 14 日にチョコレートをもらえなかった人達が集って、ジャージャー麺を食べます。お互いに慰め合います。さらに、5 月 14 日も特別な日になっていて、この日は「ローズデー」です。恋人にバラを上げます。恋人の年齢と同じ本数、20 歳なら 20 本のバラを、もしくは会ってから 100 日経っていたら 100 本のバラをあげます。そのようないろいろな特別の日が韓国にはあるのですが、もてない僕はそんな日がきらいでした。(笑) 以上です。

7　バド(モンゴル・男性)＜日本語でスピーチ＞

はじめまして。モンゴルから来ましたバド・バダラハです。日本に来たのは 13 年前になりまして、正直バレンタインデーのことはモンゴルにいた時が小さかったので、詳しくはわからないです。

父や母から聞きますと、最近になって初めてモンゴルにも「バレンタインデー」ができたらしくて、２～３年くらい前からだそうです。まだモンゴルでは歴史が浅いようです。贈りあうものとしては、日本のようにチョコとか義理チョコではなくて、恋人同士か、もしくはこれから付き合いたいなと思っている人に花とかカードを送るのが一般的になっています。モンゴル人は、少し、というか相当のんびりしているようで、日付などはあまり気にしていないみたいです。2 月中ならいいかなという感じです。あまりにひどい例だと、1 ヶ月くらいのびまして、3 月頃バレンタインデーの贈り物をする人もいるということです。「ホワイトデー」みたいなものも伝わってはいるみたいですけど、まだ広まってはいないようです。ほんとうにのんびりしている人たちですから、年がら年中バレンタインデーみたいなことをしているみたいです。日本にきて、初めてバレンタインデーというものを知ったので、毎年 2 月 14 日になるとドキドキしています。あまりもらえない年のほうが多いので、あまりバレンタインデーが好きではないのですが、これから楽しめるようになりたいと思っています。今日は、ありがとうございました。

8　リオリ（ジンバブエ・女性）＜都市生活型の環境問題を研究＞

こんにちは。今日ここに皆さんと一緒にいられて光栄で、また嬉しく思っています。「バレンタインデー」は、私にとってはあまりおもしろくない日です。というもの、デートするようになってからというもの、バレンタインデーが近づくと彼とケンカをして離れ離れとなり、またバレンタインデーが終わったころに仲直りをする、ということが多いからです。ですから、これはお金を節約してプレゼントを買わないで済まそうというボーイフレンドの策略ではないかと疑っています。(笑)

今年のバレンタインには、もっとましなボーイフレンドがいますが、私は日本にいて、彼はジンバブエにいるため、やっぱり離れ離れです。でもたぶん今夜彼が電話をくれるでしょう。

ジンバブエ(注：アフリカ、1980 年独立。人口 1,230 万人。国土面積は日本とほぼ同じ)のバレンタインはマラウイのバレンタインとよく似ています。ちょうどマラウイの友達がお話したような感じです。日本とは少し違っていますが、高校生もプレゼントを贈りますし、大人はもっと豪華なプレゼントを贈ります。1 月の終わりや 2 月の初めから、この 1 日のための予算を考えるほどです。電話会社はバレンタインデーには電話料金を半額にするので、ハッピーバレンタインの電話をすることができるし、また真夜中には 1 時間ほど無料になるので、みんな電話でおしゃべりが出来ます。職場ではどうかといいますと、ランチタイムにはバレンタインの準備をし、夕方にはもどってきて一緒に夕食に出かけます。同僚のパートナーと一緒になるいい機会となるのです。みなドレスアップし、ベストカップルにはプレゼントをあげます。男の人のなかには、毎日がバレンタインであるべきなのだから特別にバレンタインなんかしなくてもいいじゃないか、というひともいますが、それは単にケチでお金を

惜しんでそういっているのかもしれません。（札幌滞在：2009, 1, 20～2009, 3, 4）

９　ヤオ・ユエユエ（中国・女性）

みなさん、こんにちは。私は中国からきたユエユエです。中国のバレンタインについて、先ほど中国の方が話されましたが、地域によってちょっと違うところもあります。

中国の若者の間には義理チョコもあります。私は高校生のときにはいつも「義理チョコ」をあげていました。中国だったら、義理チョコは直接お店から買ってということになりますが、日本では手作りチョコが多いようですね。すごく羨ましいです。日本へ来たので、ぜひ自分でバレンタインの手作りチョコをやりたいと思っています。今日これから帰ったあと、自分でチョコレートを作りたいと思います。手作りチョコは自分の気持が入ってとてもいいと思います。今年も全部義理チョコですけど、やっぱり「心」は大切だと思います。

10　マイロ・ロバーツ（米国・男性）

最初に、今日お招き頂きましたことを感謝申し上げます。光栄に思います。私はマイロと申します。はじめまして。日本でのバレンタインデーは米国でのバレンタインデーとは、とても違うようです。日本では女性が主導権を握っていますが、米国では男性がチョコレートを買いにいかなくてはなりません。だいたいチョコレートかカードかバラの花束、というのも女性がもらうのを期待しているからです。日本では女性が贈ってくれるので、私としてはこちらの方がいいですね。米国では、バレンタインデーは製造業者のための日と揶揄されます。というのも、花やカードなどの業者がこの日に大いに稼ぐからです。価格を上げたりするのです。日本ではそんなにお金を使わずにバレンタインデーを楽しめるのがいいですね。私も、先ほどいわれたけちな男のひとりなのかもしれませんが、ここのバレンタインデーは素晴らしいと思います。

それから付け加えておきたいことがあります。まだこちらにきて５ヶ月にしかなりませんが、北大で、日本人だけでなく世界各国のいろいろな人に出会うことができました。最初は何もかもが違って見えましたが、次第に、この地球上に生きている人間はみな同じなのだと分かりました。宗教的、文化的な違いがあったとしても、人間としての違いはないのだと学びました。それは素晴らしい事だと思いました。このような経験ができたことがうれしく、またこのことを一生忘れないでしょう。英語を母国語としない人たちが素晴らしいスピーチをしたので、自分はちょっと恥ずかしいのですが、聞いてくださってありがとうございました。

ドイツの論文ご紹介　1923 年(大正 12 年)、北海道庁が招聘したドイツの甜菜農家フリードリッヒ・コッホとウィルヘルム・グラボーについては、「ＨＯＭＡＳ」54 号でとりあげました。
　今回、コッホの孫娘丸山るみい氏から下記ドイツの論文(訳文)をお送りいただいたのでご紹介します。原文は、一般的に理解困難なところがありましたので、読みやすいように一部修正し、注なども補足させていただきました。これについては、北海道河西郡芽室町にある日本甜菜製糖(株)ビジネスセンター総務課長大和田一夫氏のご教示を得ました。心よりお礼を申し上げます。
甜菜製糖のドイツと日本の関係など、現代につながる歴史を興味深く読むことができます。

《コッホ及びグラボーの日本における甜菜栽培指導の詳細な記録 》

創設者エルンスト・ギーゼケの孫、カール・エルント・ビュヒティング博士 90 歳の誕生日に捧ぐ

「20 世紀初頭の日本におけるクラインワンツレーベン製糖工場甜菜栽培方法の進展」

エルンスト・ユンクハンス著　丸山　孝士訳

１、序 文

クラインワンツレーベン製糖工場は、1856 年設立のラベトケとギーゼケの家内営業の甜菜糖製造を改良して、1885 年(明治 18 年)株式会社へと発展したものである。ウィルヘルム・ラーツ(1864-1919)、マリウス・クレルク(1853-1932)及びフェルディナンド・ラウターベルク(1862-1944)等の科学的研究方法によって、糖産物の品質検定に、近代的な科学的な分析方法の導入がはかられるに至った。甜菜の「糖」の科学的改良の基礎はウィルヘルム・ラーツによる母甜菜の質を数学的、統計的解析を加えることによって進められた。

こうして、クラインワンツレーベン製糖工場独自の種子は、ドイツ国内さらにヨーロッパ諸国の農家の注目を浴びるに至り、ヨーロッパ各国から品種評価の引き合いが求められた。1902 年(明治 35 年)には、ポーランド王国、西南ロシア、ゴルド＝ツェーグローゲンフォンU. J. マンスホルト(オランダ)、ヘルシングボルク製糖工場(スエーデン)、フランス製糖連合、製糖業グヨン＆シベリエーズベンゼル(フランス)などのヨーロッパ各国及び製糖会社が、クラインワンツレーベン製糖工場を高く評価した。

クラインワンツレーベン製糖会社は、19 世紀末、エルンスト・ギーゼケ(1887 年より社長、後財務顧問)とエリッヒ・ラベトケ(1900 年より社長、後営業顧問)によって設立されたのであるが、キーゼケの非常な努力によって甜菜改良事業を拡大し、クラインワンツレーベンの種苗生産をヨーロッパ各国に展開した。ロシア政府との交渉は難航したが、1901 年ウクライナにクラインワンツレーベンの姉妹会社設立に成功した。さらにギーゼケは、20 世紀初頭、マグテブルガーベルデの有名なヤコブシェーパー(1853－1915)を伴って、イタリアに向かい、甜菜栽培拡大の可能性を検討した。

２、19 世紀末から 20 世紀初頭における日本の甜菜糖製造

日本における甜菜栽培は、19 世紀末に試みが始められたが、1880 年(明治 13 年)、1890 年(明治 23 年)には、北海道庁における製糖業は早くも崩壊した。

その後、1920 年(大正 9 年)頃、甜菜糖製造は再び注目されるに至ったが、その当時の甜菜栽培には大きな問題があった。それは、甜菜の糖含有量がヨーロッパ産のものに比べて著しく量が少なかったからである。そこで北海道庁は、ドイツのクラインワンツレーベン製糖工場に改良の援助を求めた。この要望は財務顧問エルンスト・ギーゼケにとっては大いに歓迎すべきものであった。クラインワンツレーベン製糖工場は、積極的に援助事業を進めた。20 世紀前半の四半世紀においては、この

試みは非常に例外的なことであった。クラインワンツレーベン製糖会社の農場の一つから、この日本の甜菜栽培への援助として、信頼すべき勤勉な労働者家族が選ばれた。

クラインワンツレーベン製糖工場の農地における当時の進歩した方法は、1920 年代初頭、貨物長のボスバインと田畑試験事務のリーダー、アルベルト・タイヒマンによる甜菜栽培に関する著述として出版され、英語版、フランス語版も出版され、日本でも有名になっていた。この甜菜栽培方法は、この会社の農地で働く農夫にとってはよく知られていた。

そこで、クラインワンツレーベンの製糖工場は、現地の近郊レムカースレーベン出身のフリードリッヒ・コッホとクラインワンツレーベン在住のウイルヘルム・グラボー一家を選んだ。1923 年(大正 12 年)、両家は、当時では冒険的ともいうべき遠い東洋(注：日本)へと旅立つことになった。フリードリッヒ・コッホ一家は、家長と妻及び四人の子供から成っていた。ウイルヘルム・グラボーはその妻と二人の子供と共に日本に向かった。北ドイツ・ロイドの蒸気船でハンブルグを出港し、4 週間の旅を続けた。1923 年秋には、ウイルヘルム・グラボーはドイツのインフレについて日本に向かう船上でニュースを聞いた。彼が旅路に持参し得た僅かばかりの貯蓄は一気に無価値となった。船上から金を海に投下してしまったようなもので、無一文で日本での生活を始めなければならない状態であった。日本の神戸港に入り、そこから北海道へと向かい、フリードリッヒ・コッホの家族は十勝清水の農場へと向かった。ウイルヘルム・グラボーは十勝地区の帯広に入ることとなった。北海道庁長官の破格の歓待の後に、両ドイツ人開拓者達には、道庁の任命契約が渡された。

ウイルヘルム・グラボーの契約の中には、翌年の継続の細目が記載されていて、彼には無利子の貸し付けとして、10 ヘクタールの農地・住居・家畜・家畜小屋・4 頭の乳牛・2 頭の馬・農機具が貸与された。更に、農園の種子・肥料も与えられた。ウイルヘルム・グラボーに対しては、土地の一部を甜菜栽培に使わなければならない、そして経営しなければならない責任が課せられた。ドイツ式の合理的生活や農業経営方法を記録し、その成績のコントロールを証明できるよう記録しなければならなかった。

ウイルヘルム・グラボーの契約について特記すべきことは、毎日、日本人農家に対して、土地と家の維持、経営方法について解説指導しなければならなかったことである。この教育は、概ねそのとおり実施された。グラボーの報酬は、旅費、年俸費 5 千円、年間の２千円、１年のチップ千円であった。これは、エリヒ・トロイエの調査（1928）によれば、当時の日本人農家の平均５人家族の年間収入 350 円位に比べてきわめて高額であった。ドイツ人開拓者は、北海道庁の待遇に満足した。

ウイルヘルム・グラボーは帯広の製糖工場と北海道製糖株式会社に属する緊密な連携を保った。これらの工場では、グラボーが生産した甜菜も使われた。ドイツ人開拓者は短期間で甜菜の基礎耕作に成功を収めた。家畜肥料の分配や、皮、鍬、人工飼料などを差し引いた収益は、1 ヘクタール当たり 30 トンに達した。エリヒ・トロイエの調査（1928）によれば、これは日本人農家の収量に比して、著しく多いものであった。ウイルヘルム・グラボーは、成果をあげた４年間を終え、1927 年(昭和 2 年)帯広における活動を終了した

フリードリッヒ・コッホは、十勝清水での活動を延長して、1930 年(昭和 5 年) ドイツへ帰国するが、ウイルヘルム・グラボーの場合は、帯広における子供の教育に困難があり、後述された報告によれば帰らざるを得なかった。冬は子供らに自ら授業をした。そして彼の家族には 1924 年(大正 13 年)帯広で生まれた娘が一人いた。

帯広におけるグラボー一家の歓送会は、1927 年(昭和 2 年)11 月 19 日、北海道庁によって盛大に行われ、62 名の招待客が参列した。北海道庁長官のほか、政府高官、帯広及び十勝清水の精糖工場長、

北海道庁の役人、札幌市の種苗場や農事試験場長や高官、北大教授、札幌と帯広の市長、多くの日本人農家、新聞社二社の通信員、更に当時在道中のアメリカの客人も招かれた。多くの感謝状がドイツ人農家ウイルヘルム・グラボーに授与された。

北海道精糖工場長 S. 松方(注:北海道製糖株式会社の松方正熊社長？)は、その感謝状の中で、「貴殿は４年間に亘りここで生活し、その毎日の貴重な経験を重ね、我々に対して、いかに甜菜を栽培すべきか、またいかに有畜農業を営むべきかを提示された。我々が、この土地をどのように経済的に改良すべきかを学ばせていただいた。このことに対し、我々一同深甚の感謝を申し上げる。」と彼の業績を讃えた。また、第19代北海道庁長官澤田牛麿は、ウイルヘルム・グラボーに対する感謝状の中で、彼の努力は北海道における農耕地改良に多大なる刺激を与えたことを証明している。クラインワンツレーベン製糖工場の業績は、この遠い東洋の国の甜菜栽培の発展に大きく寄与し、また甜菜糖産業の発展を促す成果をあげたのである。

ウイルヘルム・グラボーとその家族は、この盛大な歓送会の直後、蒸気船トリエ号で４週間のハンブルグに向かう帰国の途についた。帰国後、彼は、クラインワンツレーベンの製糖工場に戻り、しばらくの間、以前の仕事に従事したのであった。

ウイルヘルム・グラボーは、数年後ベルデのエトガースレーベンに 13 ヘクタールの農場を購入し、自営農になった。彼はエトガースレーベンで 1960 年(昭和 35 年)7 月 8 日に死去した(注：67 歳)。

彼の息子、ウイルヘルム二世は 1944 年結婚し、ワンツレーベン近郊のグルーメンベルグで、父と同じ農業を営んだ。グルーメンベルグには、現在も、北海道甜菜栽培の先生(指導者)グラボーの孫と曾孫が住んでいる。

３．日本の甜菜糖産業へのドイツ援助の考察及び影響

フリードリッヒ・コッホは、十勝清水の滞在契約を延長して、1930 年(昭和 5 年) ドイツへ帰国した。帰国後、東プロシアに一時滞在の後、ベルデのマグデブルグに戻った。

帰国時 23 歳の娘ヘルタ・コッホは日本にとどまり、1930 年(昭和 5 年) 日本人酪農家三澤正男氏と結婚し、北海道八雲で、父の離日後に牧場の経営管理に当たった。この牧場は今日までフリードリッヒ・コッホの子孫の故郷となった。フリードリッヒ・コッホは、1947 年(昭和 22 年) レムカースレーベンで不慮の死を遂げ、彼の地の教会墓地に埋葬された(注：80 歳)。

この二人のドイツ人開拓者の努力は、クラインワンツレーベン製糖工場に対する日本製糖界の人々の注目を引くことになった。その後、日本からの多数の訪問者がクラインワンツレーベンの地へ来訪しており、ベルデのマグデブルグへも製糖業と甜菜栽培の実際を見学するためにやってきた。1926 年(昭和元年)から 1938 年(昭和 13 年)の間に 36 名の日本人がクラインワンツレーベンに来訪している (KWS アルキブ、1942 資料)。その中には、北海道庁の高官や東京大学、北海道大学の教授 9 名も含まれている。北海道の明治製糖会社のカツミ・カワベ博士(注:日本甜菜製糖株式会社河邊敬太郎氏のこと、一時期カツと名乗っていた。後、取締役となる。)も来訪していた。河邊博士は、青年時代にドイツに長期留学し(注：1923 年・大正 12 年から 2 年間留学)、クラインワンツレーベン製糖工場やドライレーベンにも来ていた。エレーベの門下生 (実習生) として、彼はヨゼフ・カペラ監督のもとで甜菜栽培の実際を学んだ。カワベ博士は、両ドイツ人開拓者を個人的にも衆知していた。それで、ウイルヘルム・グラボーの歓送会にも出席している。

1996 年(平成 4 年)11 月 26 日、彼の息子河邊實氏(注:日本甜菜製糖株式会社取締役・情報システム部長・開発部長)は、KWS SAAT AG(注:クラインワンツレーベン種子株式会社)を訪問し、ドライレーベンの良好な経営を見学した。クラインワンツレーベンの知人やその先祖の足跡を辿り、親しい家族

との旧交を温める、旅であった。

フリードリッヒ・コッホは、ドイツ帰国直前、娘ヘルタと三澤正男氏との結婚式を 1930 年(昭和 5 年)11 月 29 日に札幌で行った。この夫妻から５人の子供が生まれたが、祖父フリードリッヒ・コッホを知る者はいない。レムカースレーベンの親族達との連絡は文通によって長期に亘り保たれていたが、1982 年(昭和 57 年)、DDR(注：ドイツ民主共和国。1945 年第二次世界大戦後分割された東ドイツ。1990 年 10 月の東西ドイツ統一まで。)の行政官庁によって断絶された。日本と東ドイツ間の郵便物は全く届かなくなり、親戚は視界から消え失せてしまった。

2001 年(平成 13 年)夏、フリードリッヒ・コッホの孫娘の一人丸山るみい氏とその家族(注：夫丸山孝士氏)はヨーロッパへの旅行を計画し、祖父の誕生の地レムカースレーベンを訪問した。町の迎賓館では遠来の客に心からの歓迎を示した。レムカースレーベンの教会での礼拝の後にフリードリッヒ・コッホが埋葬されている教会墓地を訪ねた。こうしてやっと、レムカースレーベンに現存する親族達は再会を果たし、午後には日本の家族はクラインワンツレーベンの ZKW 種苗会社を訪問した。これは KWS SAAT AG(注：クラインワンツレーベン種子株式会社)の姉妹会社であり、フリードリッヒ・コッホが以前勤務していたところである。フリードリッヒ・コッホの孫娘は感動的な挨拶で彼女の祖父への謝辞を述べ、KWS の芳名録に署名した。

４．KWS SAAT AG(注：クラインワンツレーベン種子株式会社)と日本甜菜工業の現状

クラインワンツレーベン製糖工場との 80 年以前に交わされた約定は多大な結実をみた。日本では、今日でもこの援助はよく記憶されている。二度の世界大戦の後、日本製糖産業と KWS との接触は引き裂かれてしまった。北海道では、米国式耕作が導入されたが、1950 年(昭和 25 年)代になると広大な農地調査が行われ、再び KWS 式栽培が開始され、比較検討の結果、KWS の品種が明らかに優越であることが示された。特に製糖会社理事長(注：日本甜菜製糖株式会社取締役)である河邊敬太郎氏は日甜との古い関係を復活させ、1960 年代には、当時 KWS の通商代表であった H. ライドロフに日本の最初の訪問を勧めた。

今日、北海道には、三つの製糖会社に属する八つの製糖工場(＊注)がある。全ての会社に対し、KWS SAAT AG はよい関係を持っている。特筆すべきは、日本甜菜製糖株式会社（日甜）との緊密なパートナーシップである。

現在、日本では、68、000 ヘクタールの農地面積で甜菜が栽培されている。大部分は、ペーパーポット式で、KWS はその 40%以上のマーケットシェアを持っている。感謝すべきことは、日本では 1 ヘクタール当たり 10 トンの砂糖の生産を上げていることである。5 月初旬から 10 月中旬までの生育期間という、非常に短い期間にもかかわらず、最新の品種と最良の栽培技術の成果である。

＜謝辞＞

ウィルヘルム・グラボーの嫁. ベルタ・グラボー様(グルーメンベルク在住)、及びフリードリッヒ・コッホの孫娘. クリスタ・ノイゲバウアー様(レムカースレーベン在住)の校閲を得たことに対して、ここに謝辞を述べたい。

＊(注)３社８工場　① 日本甜菜製糖株式会社　：芽室製糖所、美幌製糖所、士別製糖所
② 北海道糖業株式会社　：北見製糖所、道南製糖所、本別製糖所
③ ホクレン農業協同組合連合会　：中斜里製糖工場、清水製糖工場

滝川市　姉妹都市交流ニュース

スプリングフィールド市並びにロングメドー町との交流について

滝川市総務部企画課交流推進室

本年度、当市とマサチューセッツ州スプリングフィールド市（以下ス市）は姉妹都市提携15周年の節目を迎えました。これまでにのべ309人の本市市民がス市を訪問し、ス市からはのべ118人が本市を訪れています。また、３年前からは、ス市の隣町であるロングメドー町との交流も盛んになってきており、交流の輪が広がってきています。

ロングメドー町との交流は、平成１８年にジュニア大使訪問団が同町のロングメドー高校を訪問しことをきっかけに始まり、平成１９年にはジュニア大使訪問団と共に滝川西高校短期留学生が同校を訪問。平成20年２月にはロングメドー高校から生徒15名並びに教師２名が「第１回ロングメドー高校滝川訪問団」として来滝し、滝川西高校、滝川高校をはじめとする市内学校の授業に参加するなど積極的な相互交流が展開されています。

ロングメドー高等学校は、卒業生がハーバード大学やＭＩＴ等の有名大学に多数進学し、また、アメリカンフットボール部やオーケストラ部などの放課後活動も極めてレベルの高いマサチューセッツ州内でも屈指の文武両道の優秀公立高校です

当市が毎年派遣しているジュニア大使訪問団は、今回、この両市を訪問しましたが、本年度が姉妹都市提携15周年であることから、団長を滝川市教育委員会小田教育長にすると共に、団員は例年より２名増員の８名構成とし、総勢１０名で派遣致しました。

バスケットボール発祥の地であるス市では「ネイスミス記念バスケットボール殿堂館」をはじめ、「スプリングフィールド大学」等を視察しました。また、マサチューセッツ・北海道協会会長スー・ルート氏のご尽力により、大変多忙の中、ス市ドミニク・サーノ市長を表敬訪問させて頂き、団員に激励の言葉を頂きました。

ロングメドー町では、ロングメドー高校を訪問し、授業を体験すると共に、２００名を越える生徒の前で、団員の所属する学校の紹介、日本文化として「よさこい」踊りを行いました。しかし、何と言っても団員に大きな感動を与え、「必ずまたここに来たい！！」と思わせたものは、３泊４日のホームステイでした。さよならパーティーでは、双方の生徒達が互いに抱き合い、涙を流しながら別れを惜しんでいました。

ロングメドー町との交流は、これで３度目となったことから、今回の訪問において滝川市教育委員会小田教育長とロングメドー町教育委員会ハート教育長との間で「滝川市・ロングメドー町教育交流促進に関する覚書」を交わし、今後の活発な教育交流等を約束しました。

平成２１年度は、７月上旬にロングメドー高校から生徒が来滝する予定となっており、また、当市からは例年通り１０月頃にジュニア大使訪問団を現地に派遣する予定です。地球の未来を担う青少年育成は一足長には成果が上がるものではないことから、今後も両地域にとって実りある交流を地道に続けていきたいと考えております。

サーノ市長 ↑

［ ジュニア大使訪問団 ］ スプリングフィールド市長表敬訪問

［ジュニア大使訪問団］ ロングメドー高等学校にて

［ ジュニア大使訪問団と滝川西高校短期留学生］ ホストファミリーとのお別れ

国際交流員　マシュー・シーザーさんのご挨拶

Hello everyone! My name is Matthew Caesar, and I am currently the Coordinator for International Relations in Takikawa. I was born and raised in New York City. I enjoy canoeing, kayaking, hiking and other outdoor activities, as well as photography.

I'm often asked how I came to be interested in Japan. When I was a young child, my aunt took many business trips to Japan, and the gifts I received piqued my interest. This interest laid mainly dormant until I reached high school, where I began to take Japanese courses in the 10th grade. My school, Townsend Harris High School, was named after the first United States Consul to Japan (Townsend Harris). In 1984, the school began to offer Japanese classes in his honor, the first school to do so in all of New York City. I also studied Spanish and Latin during my high school years, but

decided to continue studying Japanese in university.

I entered the University of Massachusetts Amherst in 2002, majoring in Japanese Language and Literature. After two years at UMass, I hoped to spend a year in Japan, and when the time came to choose a school, I decided to attend Hokkaido University for the 2004-2005 academic year. This was the beginning of my relationship with Hokkaido. I even attended a HOMAS luncheon in the fall of 2004—perhaps you remember me?

It has been over a year and a half now since I first came to Takikawa. During my time here, I have found the work relating to the sister city relationship between Springfield, MA and Takikawa, as well as the relationship between Longmeadow High School and Takikawa Nishi High School, to be the most fulfilling. I hope that through our work here in Takikawa, students in Springfield and Longmeadow become more interested in Takikawa, and that they learn about the long history between Hokkaido and the Commonwealth. The history between both places is what brought me to Hokkaido, and I sincerely hope that many more will follow in my steps, and make their way here!

（訳文）

みなさん、こんにちは！私は滝川市の国際交流員、マシュー・シーザーと申します。私はニューヨーク市で生まれ育ちました。カヌー、カヤック、ハイキングなどのアウトドア活動と写真撮影が好きです。

どうして日本に興味を持つようになったか、よく尋ねられます。私が子どもの頃、叔母がよく日本に出張し、その時もらったお土産が日本に興味を持つきっかけとなりました。その興味は日本語コースを受け始める高校１年生までほとんど眠っていました。私の母校のニューヨーク市立タウンゼント・ハリス高等学校は、初代駐日総領事タウンゼント・ハリス氏にちなみ名付けられました。1984年、ハリス氏の栄誉を称え、ニューヨーク市内の高校で初めて、日本語クラスを提供し始めました。私はスペイン語とラテン語も高校在学中に勉強しましたが、大学では日本語を勉強し続けようと決めました。

私は2002年にマサチューセッツ州立大学アーマスト校に入学し、日本語・日本文学を専攻しました。同大学で2年過ごした後、私は1年間日本に留学することを希望し、学校を選ぶ時期が来た時、私は2004年から2005年まで北海道大学に留学することに決めました。これが私の北海道との関係の始まりです。覚えておられる方がいらっしゃるかもしれませんが、実は、私は北大留学中に2004年度の北海道・マサチューセッツ協会主催「国際交流ランチセミナー」に出席したことがあります。

滝川に着任して１年半になります。滝川市とスプリングフィールド市の姉妹都市交流に関係する仕事、滝川西高等学校とロングメドー高等学校の交流に関係した仕事が最もやりがいがあるとわかりました。滝川市の交流事業を通して、スプリングフィールド市とロングメドー町の生徒がさらに滝川市に興味を持ち、北海道とマサチューセッツ州における長い歴史を学ぶことを願います。私は両地域の歴史により北海道に導かれ、より多くの人が私の足跡をたどり、ここに彼ら自身の道をつくることを心から願います！

事務局短信

バークリー音楽院タイアップ「北海道グルーブキャンプ2009」<2009,3,29～4,4>いよいよ実施

アメリカ・ボストンの名門バークリー音楽院(Berklee College of Music)のタイガー大越教授他5名の音楽専門教授陣による、ジャズ音楽文化の振興と若い世代を育成するためのジャズセミナー「北海道グルーブキャンプ2009」(札幌市芸術文化財団主催)が、札幌芸術の森アートホールで開催されます。今年度で4回目になります。「北海道・マサチューセッツ協会」も後援しています。最終日夜には、バークリーオールスターズによる、スペシャルジャズライブ(前売3,000円・当日3,500円))が予定されています。ぜひ、五参加を！

開催期間　2008年3月29日～4月4日 ＜ 6日間（4月1日は休講） ＞

参加対象　小（高学年）・中高生　約120名　＜受講料は各パートとも4万円＞

募集部門　アルトサックス、テナーサックス、バリトンサックス、トランペット、トロンボーン、ドラム、パーカッション、ベース、ピアノ

講師陣　タイガー・大越（主任、金管楽器、トランペット）　デヴィッド・クラーク（ベース）
ジョアン・ブラッキーン（ピアノ）　ユーロン・イズラエル（ドラム、パーカッション）
ジム・オドグレン（木管楽器、アルトサックス）

なお、受講者の中から優秀者数名に、バークリー賞として「バークリー夏期講座」(5週間）への参加資格（授業料免除）が与えられます。

2009　コンコードカーライル高校生グループ来札日程について

マサチューセッツ州コンコードカーライル高校グループ(生徒17名、引率者5名、合計22名)が、4月16日(木)～23日(木)の日程で来道、札幌・七飯を訪問します。札幌では、北海道庁表敬訪問、市内観光、札幌東商業高校との交流・ホームステイ、札幌デザイナー学院のアニメ作成セミナー受講(札幌東商高・札幌白石高も一緒)などを予定しています。HOMAS英語スタッフ(新藤五郎・岩崎修子・藤井康子　他)が通訳ガイドとして同行します。

高校生のためのマサチューセッツ講座「実践英会話教室」の開講ついて

2010年、北海道・マサチューセッツ州姉妹提携20周年にむけて、訪問団交流や各種イベントに活躍できる「高校生ガイド」の英語力育成をめざします。国際交流の知識や、札幌の歴史・文化を踏まえた案内・交流ができる実践英会話教室を、5月から、土曜日午前・毎月1～2回程度継続的に開講します。会場は、札幌市社会福祉総合センター（大通西19丁目）で、札幌市及び近郊の高等学校の日帰り可能な生徒(約20～30名)を対象にします。講師陣は、HOMAS英語スタッフの新藤五郎・岩崎修子、及びネイティブのアメリカ人の予定です。

第3回　名古屋ボストン美術館の旅･･･参加者募集･･･

2009年は、「第3回　名古屋ボストン美術館の旅」―名古屋ボストン美術館ゴーギャン展鑑賞・お伊勢参りツアー(2009年6月5日～7日)を実施予定です。今回は、米国ボストン美術館門外不出とされていたゴーギャンの「我々はどこからきたのか、我々は何者か、我々はどこへいくのか」の大作を名古屋でじっくりと鑑賞できます。また、一生に一度は･･･といわれる「伊勢神宮参拝」にほぼ1日かけます。さらに名古屋も1日フリータイムで観光できます。ふだんはなかなか行けないコースだと思います。ぜひ思いきって出かけませんか。

詳細は別紙「参加者募集要項」をご覧下さい。皆様の、早めの、ご参加申込をお待ちしています。

新入会員紹介（ 2008年12月10日以降 ）　＜個人会員＞

佐藤　美保　　マービン・ギルモア　　池田　雅彦　　安斉　勲　　佐藤　充子

2010年は、北海道とマサチューセッツ州の姉妹提携20周年です！

ANNIVERSARY 30周年

すずらん乗馬クラブ

乗馬として私たちの夢をかなえてくれる引退後の競走馬たち…

有馬記念、ジャパンCなどの GIレースに参戦し大活躍、グレードレースを制した 名馬がここにいる…。

代表取締役 [illegible] 桂子

[illegible]地で乗馬を通じて出会[illegible]と癒しを大切に[illegible]。冬は雪景色の中、夏は[illegible]の水空の中、乗馬を楽しんでみませんか。お馬さんとお待ち[illegible]おります。

まねきネコしてますニャ〜♥

遊びに来てニャ〜♥

馬の見学・記念乗馬などご自由に出来ます

■5級技能認定コース
（初心者コース）

■(社)全国乗馬倶楽部連合会公認

4級・3級・2級コースもあります。

乗馬は何歳からでも始められます！

（入場・ヘルメット・長靴貸出し無料）

■メンバー料金
入会金 52,500円(税抜50,0[illegible])
年会費 42,000円
騎乗料 3,150円(税抜)
指導料 1,050円(税抜)

■ビジター料金
騎乗料 5,250円(税抜)
指導料 1,050円(税抜)
※騎乗・ビジター料金とも別途A

体験乗馬チケット

10,000円

（騎乗料＋指導料＋消費税込み）

［4回×30分］期限なし

（入会後別途年会費が必要ございません）

すずらん乗馬クラブ

JR恵み野駅下車徒歩10分

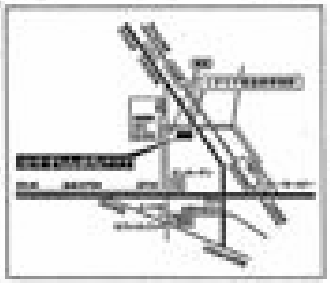
年末年始も営業（1/1〜1/3）

恵庭市西島松548

TEL(0123)36-6386 FAX(0123)37-1666

☆定休日／毎週月曜日（祝日の場合は営業）・12月31日

http://www.north-wind.ne.jp/~suzuran/



体験乗馬クーポン

クーポン使用で体験乗馬チケット10,000円がさらに

さらに10%OFF!

※他割引券との重複不可

すずらん乗馬クラブ
恵庭市西島松548

※お乗り前でご使用下さい